福岡・室町（むろまち）遺跡

1　所在地　福岡県北九州市小倉北区室町三丁目

2　調査期間　一　一九九九年（平11）一一月～一二月、二〇〇〇年四月、二　二〇〇三年八月～一〇月

3　発掘機関　㈶北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

4　調査担当者　一　宇野慎敏、二　柴尾俊介

5　遺跡の種類　城下町跡・船入り跡

6　遺跡の年代　近世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

室町遺跡は、小倉城東側を北流する紫川の河口に位置する。江戸時代は、船溜りとして栄えたところである。

木簡は、第三地点から七点、第六地点から二点、いずれも船溜り埋土から出土した。第三地点は船溜りの南部分に、第六地点はその北に接し船溜りの北部分にあたる。幕末期に、この船溜りは埋め立てられ、より北側に船溜りが移動した。

（小　倉）

8　木簡の釈文・内容

一　第三地点

(1)　〈木下村利右〇衛門」　(127)×22×5　033

(2)　「南原村　栄助」　133×18×5　051

(3)　・「〇小倉井上政吉　〇」
　　・「〇小くら井上政吉〇」　271×42×8　011

(4)　志井村七右衛門分」　(100)×20×3　059

(5)　庄や　菊右衛門」　(79)×22×1.5　059

(6)　「か、さか」　74×34×5　011

(7)　・「〈米五斗五升入　」
　　・「〈国東郡櫛来村新屋」　209×33×5　033

(1)は長方形の材の下端を尖らせ、上端に左右の切り込みをいれたもの。切り込みより上部は欠損。中央やや下端寄りに円形の穿孔が見られる。(2)の表面は、カンナによる粗ケズリ、先端は鋭い刃物により尖らす。(3)は長方形の材で、四隅を隅切りにする。上下両端中

央に円形の釘孔がある。(4)は長方形の材で、下端を台形状に左右隅切る。上端は折損。(5)は長方形の材で、下端を台形状に左右隅切る。上端は折損。(6)は短い長方形の材で、小口はともに方頭を呈する。(7)は長方形の材で、下端を台形状に細長く隅切り、上端は、左右の切り込みを入れたもの。

二　第六地点

(1)　「□□」　(182)×19×15　081

(2)　「山本村」　(63)×19×2.5　081

(1)は直方体の材で、上端に長さ一・六cmの孔を穿ち、それに直交するように径三mmの円形の孔を二個穿つ。下端は折損。(2)は長方形の材で、上端は方頭、下端は折損する。

第三地点・第六地点出土木簡はいずれも、船溜りで大船から小船に移しかえる時に荷札などが落ちたものか、廃棄されたものと考えられる。江戸時代後期から幕末にかけてのものであろう。

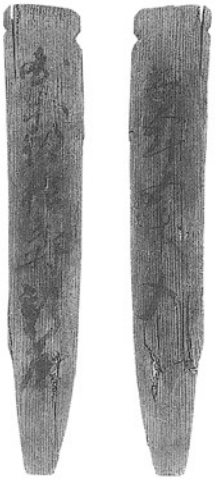
9　関係文献

(財)北九州市芸術文化振興財団『室町遺跡第三次』(北九州市埋蔵文化財調査報告書二八二、二〇〇二年)

同『室町遺跡第六地点』(北九州市埋蔵文化財調査報告書三五七、二〇〇六年)

(一　宇野慎敏、二　柴尾俊介)

一(3)



一(7)

一(1)

一(2)

一(4)

一(5)

一(6)